

新連載

舞鶴の歴史をたどる

Vol.1



海・ふね・商い

舞鶴市文化財保護委員 高橋 聡子

波静かな舞鶴湾では、交通手段が舟しかないという所もあって、戦後も手漕ぎ舟が縦横に動き回っていました。えびす祭に高野川大橋詰めには舟を置いて、町で冬物衣料や種などを買いためた後うどんで腹捲えをして帰ったという話を聞きます。

平成12年(2000)火力発電所建設予定地の千歳浦入遺跡で、約5300年前の縄文時代の丸木舟が見つかりました。船首部分しか残っていませんが、全長最大級の長さ推定10m幅1mの大きさで、直径2mほどの杉を使ったと見られます。近くの発掘現場から北陸系の土器・富山湾沿岸の蛇紋岩製の耳飾・隠岐島の黒曜石・四国製のサヌカトなどが出土していて、外海にまで漕ぎ出し沿岸地域との交易があったことを語ってくれます。

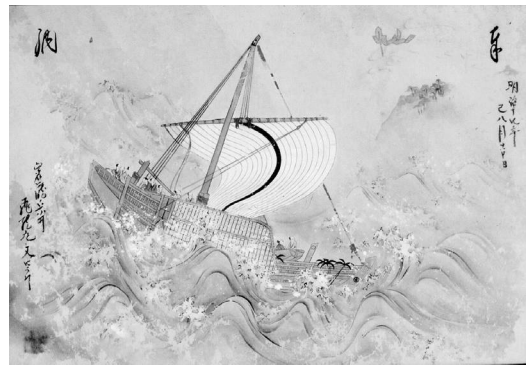
江戸時代、年貢米や諸物資を江戸へ、また換金のために大坂へ運ぶために船が大きな役割を果たすようになりました。牛馬を使った陸路の運送とは比べようもなく大量に輸送できたからです。産業が発達し商品の流通が広がると到る所に回船業が興り、各地の特産物や消費物資を積んだ船が航路沿岸の諸港を往来しました。

■辺城下の竹屋町は高野川河口に位置し、藩御用の船主もあり、藩内の港町として領内外の各地を交易していました。近藤家では2艘の回船を山良川の船頭に託して、羽越の米・小豆、両丹の繰り綿・木綿・たばこ・桐油・種油、出雲の木綿・地福石、大坂の砂糖をはじめ、大豆・塩・身欠にしんなどを売買取引をしています。市場や大波にも湊がありました。

山良川河口の神崎村や山良村では、多くの男達が船乗りとして城下町■辺・富津、更に若狭や大坂の回船に乗り込んで活躍しています。長年水夫を勤めたのち船頭に昇進し、やがて船主となる者もありました。また山良川・若狭湾内において5, 60石積みの小型船で運賃積みやを営む中で資金を貯め、徐々に大型船を購入し自分が船頭となって、出羽地方や北海道から上方(大阪)を直結する「北前船」にまで成長する者も現れました。

丹後の回船は江戸後期から明治中期にわたる時代が全盛期でしたが、運賃積みよりは買積船が中心で商品価格の地域な格差を利用して積荷の売買をし、「親方船持、船頭金持」といわれています。3月から10月の日本海が静穏な季節に乗船し、11月には船は適当な地に冬囲いして船乗りは帰郷したのですが、■定給のほかに積荷の一定割合が分与される切出(きりだし)や自家貨物を添積みして私的に商売する帆待(ほまち)など別途の収入もありました。

神崎村の神原善治郎持ち船「伊勢丸」(3人乗り、100石積)は慶応4(明治元)年3月から翌年4月はじめまでの13か月間に、西は馬場へ1往復、備前境港1往復、北へは越



飛龍丸 難船絵馬

明治14年 山良の船頭系井文四郎により金比羅神社に奉納
若丸丸系の持船で21反帆9人乗り(山良協自治会蔵)

前三■4往復、若狭早瀬1往復していますが、丹波丹後地方の桐油や加工品を境港で鉄などと交換し、三■・早瀬とでこんにゃく玉・檜・桐実・生蠟・嶋(丹波木綿)・黒砂糖(仲介品)に対して菜種・越後米(仲介)を回漕しています。

回船は大抵は真中に大きな帆柱を立て、2尺6寸巾の木綿布をつなぎあわせた大きな帆を張った和船、弁財船なので(100石船で11反帆、500石船で18反帆、千石船で23反帆)、逆風や強風を避け順風や汐の流れ待つために停泊日数が多かり、風待ちの北前船の入港した富津新浜では綿の財布が空となる賑わいを見せたものでした。

石州浜外ノ浦(現島根県浜田市外浦町)回船問屋清水家の客船帳によると、神崎の神原重太郎持ち船清正丸が安政5年(1858)5月14日に登入津、檜を買い20日に出船。また7月9日には鯖・しいらを買ひ、その後度々入津し商いをしています。明治19年(1886)に若州小浜にて165石積み新規造船し(代金180門60銭也)、明治25年6月16日、同28年10月12日にも入津。さらに明治31年に石見■にて550石積み西洋型(合の子型)2本帆柱の長運丸を代金1350門で買求め航海したのは、「3月12日登入津、5月10日登入津、8月30日下入津、9月9日出船」と記録されています。しかし、この船は船体に不都合があって同年12月大坂で売却となり、不景気で船玉価格は下落し僅か450門にての売却でした。なお重太郎氏は明治33年280石積みを代金330門60銭で買ったものの、11月には売渡し回船業を廃業しています。

※当時の貨幣価値(明治前期) 米1石=5門

丹後の回船は、江戸時代から諸物資の大量輸送と交易に寄与してきましたが、明治になり蒸気船や鉄道に押され、また取引の値が電報でされるなど■内市場の統一により、中央と地方の市場の差がなくなり、船商いの利潤も減少したため、明治後期になると急速に衰えてしまうこととなります。

※企画展「丹後の廻船—奉納和船と船絵馬—」を開催中

場所：郷土資料館(北■辺)

日時：6月15日(日)まで、午前9時～午後5時

(休館日は、毎週月曜日)

入場無料

高橋 聡子(たかはしとしこ)

西舞鶴高校・奈良女子大学卒業

京都府文化財保護指導委員・舞鶴市文化財保護委員

著書に『舞鶴の歴史—まほろば逍遥』、共著に『京都の地名 検証』